

———— Kiyomasa Power-up 拡張機能 ————

デガード

———— Kiyomasa PRO Deguard ————

点では捕捉できない気象リスクを
任意エリア(面)で監視&アラート発報

ダム・河川・水門・下水道・橋梁
道路工事等で特に高い活用効果を発揮



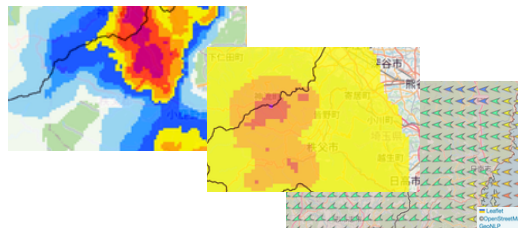
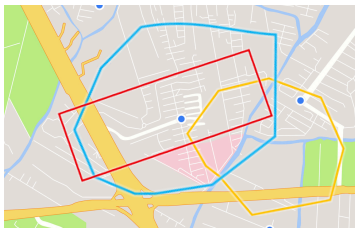
技術提案の圧倒的な差別化・現場の高度な安全管理に

デガードを使うと **KIYOMASA PRO**で面的監視アラートが受け取れます

監視エリア
(ポリゴン)



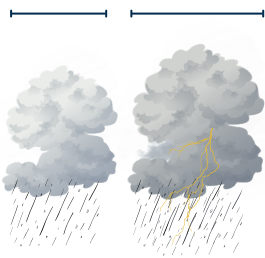
高精細リアルタイム
気象解析予測データ



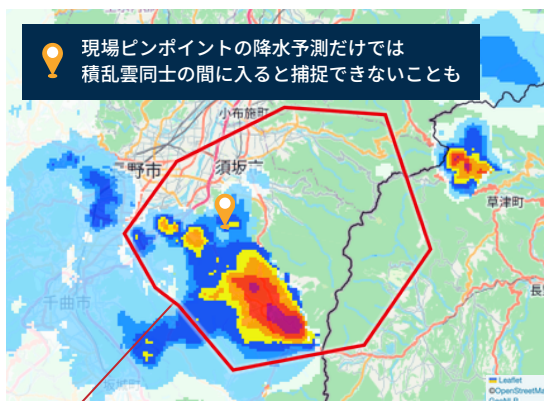
デガードは、KIYOMASA PRO（NETIS登録技術）の予測をもとに、降水量や風速などの気象要素を、任意エリアで監視・アラート通知するサービスです（有料オプション）。面的に監視をすることで、施工範囲や現場の上流・流域などで、スケールの小さい積乱雲が急に発生・発達した場合でも、現場へアラート通知することができるようになりました。

徹底した安全管理になぜ**面的監視**が必要？！
積乱雲の特性に関係があります

積乱雲の大きさ
数km～10km程度



降水は**断続的**で
局地的な変化が激しい



現場への影響が懸念される領域を監視エリア登録
豪雨をもたらす積乱雲を検知したら即アラート！

KIYOMASA PRO + デガードで
気象リスク管理が格段にパワーアップ

監視可能な気象データ



- ・60分先までの降水量（5分更新）
- ・最大36時間先までの降水量（30分更新）
- ・60分先までの雷危険度（10分更新）
- ・60分先までの竜巻/突風危険度（10分更新）
- ・最大36時間先までの平均風速（30分更新）

今後、対応気象データは増やしていく予定です

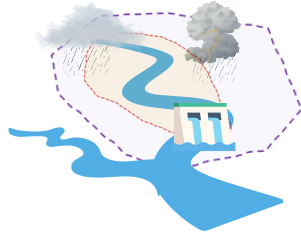
任意多角形ポリゴンでガード！

道路/鉄道工事区間を囲む



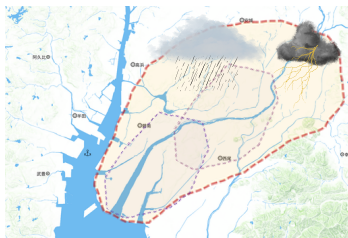
降水や強風状況で作業可否判断

ダム集水域を囲む



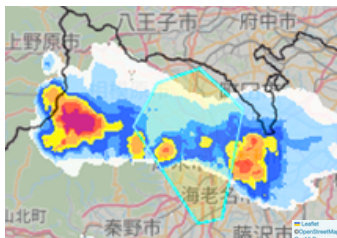
集水域の降水をリアルタイム監視

河川流域を囲む



本流や支流の流域を監視

下水道管理も多角形で



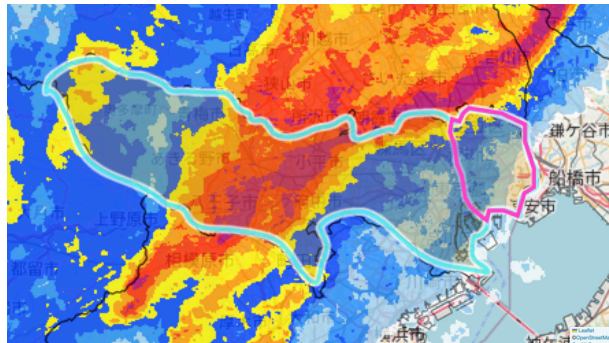
任意ポリゴンで広域気象監視

(地図は国土地理院地図より)

行政界でガード！

市区町村（複数の市区町村をまとめることも可能）や都道府県といった行政界で監視エリアを定めることもできます。例えば、警報・注意報の発表地域とあわせて、そのエリアの豪雨や強風を監視するといったことが可能です。

警報や注意報よりも、より厳しい基準値でアラートを受信し、早期に対策や具体的行動につなげたい現場ニーズに対応できます。



東京都と23区東部を監視エリアとして設定したイメージ
気象データやアラート基準値の個別設定が可能

段階を踏んでガード！

監視エリアを複数設定することもでき、エリアごとに監視気象データを別々に設定したり、同じ気象要素でも、閾値（アラート基準値）を段階的に設定したりすることが可能です。これにより、気象災害リスクの接近を段階的に注意喚起でき、より事前に対策を講じることにつながられます。

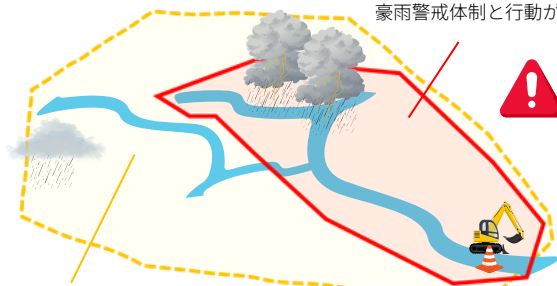
例えば、河川水位に関わる降水監視では、第一監視エリアとして広域の集水域を登録し、最大36時間先の降水予測の基準値を「エリア内で20mm/h以上の降水量が予測された時」に設定。

第二監視エリアとしてより現場に近い流域を登録し、最大36時間先予測と60分先の雨量予測の基準値で「エリア内で50mm/h以上」とするなど、面的にも・基準的にも段階を踏んで監視ができ、アラートを受信することもできます。



河川水位に関わる段階的な降水監視の例

36時間 & 60分先予測データ監視
豪雨警戒体制と行動が図れる



広域の集水域を36時間先予測データで監視
水の流れ込みに早期から備える

- 第一監視（注意）エリア 36時間先降水量20mm/h
- 第二監視（警戒）エリア 36時間/60分先降水量50mm/h

工種別活用シーン



橋梁・道路・鉄道工事

橋梁や道路・鉄道は施工範囲をエリア登録し、豪雨や強風を監視。風が集まり強まりやすい地形の場合は、エリアを囲って気象リスクを監視・捕捉できます。警報・注意報よりも厳しい基準値の早期の対応につながられます。



ダム工事

ダム集水域を登録し、基準を超える降水量が解析・予測されたらアラート。気象リスクの接近を段階的に把握も可能。複数領域を設け危険度レベル別に監視したり、同一エリアを複数の基準値を設定して監視したりできます。



河川工事

河川水位上昇に関わる流域を上流・中流・下流に分けて監視。60分先予測でゲリラ豪雨への対策、36時間先予測データは工程管理にも有効。雷と竜巻危険度を監視し、機材への落雷や突風による転倒へ備えることもできます。



下水道・水門管理

下水道管理では、管の上流域や集水域を登録し、降水量を監視。60分先予測で豪雨アラートが届いたら、作業を中止し避難。36時間先降水アラートが届いた際は、システムの制御を検討したり、作業可否判断に活用できます。

株式会社GRIFFY

営業担当：櫻本・鈴木

TEL：03-3668-6142（気象部直通）

MAIL：kiyomasa@lbw.jp

URL：https://kensetsu.lbw.jp/

技術提案・活用相談受付中！

お見積り・お申込はこちら

建設気象PRO

